

# 富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ  
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布しています。

## 専従職員の苦労や悩みは・・・ 第34回全国専従職員研修会の報告

12月12日（木）～13日（金）石川県山代温泉にて全日本ろう連盟専従職員研修会が開催され、初めて参加しました。17都道府県から31名の参加者がありました。

まず、全日本ろう連組織委員会委員長、藤平淳一氏より基調報告が行われました。全国で問題になっている会員減少、日聴紙等読者拡大。デフリンピックなど、分かりやすくお話いただきました。また、デフリンピック参加のために会員となった人もいるそうで、デフリンピック後にその人たちが会員継続となるかどうか心配という話もありました。

次に、福島県聴覚障害者情報支援センター所長、山田尚人氏より「働きやすい職場環境を考える」をテーマに講演。行政職員として長く勤めていた山田氏が2023年から福島県聴覚障害者情報支援センターに入職し、運営について工夫していること、職場の雰囲気づくり、他の職員との関わり方、震災当時の話なども織り交ぜながら、「何でも屋」である専従職員の現状などを話されました。

後半は、ろう者3名、きこえる人3名の計6名のグループ討議。それぞれの協会・施設の現状や、困りごと（愚痴）など、ざっくばらんに話すことができました。いろんな立場、いろんな職種の人と話し、同じような困りごとや苦労を抱えているのがわかり、仲間がいるという安心感も。機会があれば、ぜひ、また参加したいと思えるような研修会でした。（宮崎知子）



## 震災発生後、安否確認などICTをどう活用？

### 全国聴覚障害者情報提供施設協議会 映像制作担当職員研修会の報告

11月21日（木）～22日（金）新潟県聴覚障害者情報センターにて聴覚障害者向け映像制作担当職員研修会が開催され、参加人数は約30名。

最初は「著作権制度の概要」をテーマに文化庁著作権課の檀上容子氏より、著作権について詳しくお話いただきました。次に石川県聴覚障害者センターの壁下潤一氏より能登半島震災が発生したとき、救援体制や取材などで苦労したこと、気を使ったこと、マスメディアとの関わり方などについて実体験を基に詳しく説明されました。最後に目で聴くテレビディレクターの重田千輝氏より能登半島震災発生時に目で聴くテレビの取材クルーの行動や段取り、取材で苦労したことや気をつけたことなどを実際に取材した様子の映像をおり交ぜてお話いただきました。そのあとは場所を変えて情報交換会を実施し、楽しく交流しました。

2日目は4つの班に分かれての映像担当としての取材や企画について討論しました。

私としては震災発生後、安否確認などでICTをどう活用しているのか実際に経験した壁下さんの苦労話が印象的でした。（菊池友達）



### センター利用の実績 11月21日～12月19日

- 来所者合計 約450名  
聴障者約114名、健聴者約336名
- コミュニケーション支援 103件
- ライブラリー貸出 2件6本
- 相談対応 4件
- 部屋貸出 36件

- ★センター運営募金・募集郵便振替口座；  
00790 - 0 - 93002  
名称；富山県聴覚障害者センターを支える会  
よろしくお祈いします。